

世界第五位の斜張橋 多々羅大橋

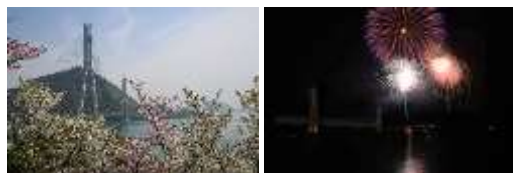
斜張橋とは、塔から斜めに張ったケーブルで橋を支える構造の橋のことであり、多々羅大橋は1999年の5月にしまなみ海道に開通した斜張橋です。鉄塔の高さは海拔226m、全長は1480mで、完成当初は世界一位、現在も世界五位の長さを誇っています。今回は、そんな多々羅大橋について、時間ごとの景色の変化や、本州四国連絡高速道路株式会社の方からお伺った橋まつわる秘密について紹介します。

<夏の多々羅大橋の様子>

6:00AM		<p>日が昇ってくる所を狙って撮影 水面に写る日の光や橋の影がとてもきれいです。</p>
10:00PM		<p>日に照らされた様子を撮影 晴れた日には青空ときれいな海が橋を引き立たせます！</p>
7:00PM		<p>夕日が沈みかけている所を撮影 オレンジ色に照らされる主塔が見どころ！</p>
9:00PM		<p>夜電灯に照らされた橋を撮影 行き交う車のライトで光の道ができています。</p>

番外編！ 特別な多々羅大橋

右の写真は4月上旬の桜と、夏休みに開催されているサマーフェスタでの多々羅大橋の写真です。桜のピンクと色とりどりの花火が多々羅大橋を引き立てています。この季節に大三島に来る際には要チェック！



多々羅大橋のヒ・ミ・ツ



① ケーブルについて

ケーブルの本数は84本×2セットの合計168本あり、その表面には小さな穴が無数にあります。これは雨などでついた水滴を落ちやすくするためであり、この構造によりケーブルが劣化しにくくなっています。また、ケーブル1本1本に番号が振られており、根元の数字で振られている番号を確認できます。



② 橋の出入り口について

橋の出入り口には隙間が設けられており、その上には鉄板が敷かれています。多々羅大橋は気温の変化により膨張、収縮をしますが、鉄板が敷かれている部分の隙間により橋の大きさが変化してもバランスを保っています。夏場の気温が高いときには膨張と収縮に伴い鉄板が60cmも動くそうです。右の写真からは、橋の収縮に伴い、白い線のみで実際に鉄板が動いたことがわかります。



③ エレベーターについて

右のエレベーターは多々羅大橋の鉄塔の上部に上るために鉄塔の中に設置されているものです。このエレベーターは上っている途中で体が傾かないよう、鉄塔の形に合わせて床が傾く仕組みになっています。



④ 基礎部分について

多々羅大橋を支える基礎の部分は、当時工事に携わっていた人たちが海に潜水して作業を行い、建築されました。海の中での工程は、危険を伴うとても大変な作業ですが、当時の方々が命懸けで工事を行ってくださったおかげで現在の多々羅大橋が存在しています！

